

瓦寅工業株式会社

保険の外交もしていた女性
が転職し、建設会社への営業を
始めたんです。
マンションや公共建築物の屋根に
瓦が採用される時期と重なり、
客先が広がった。



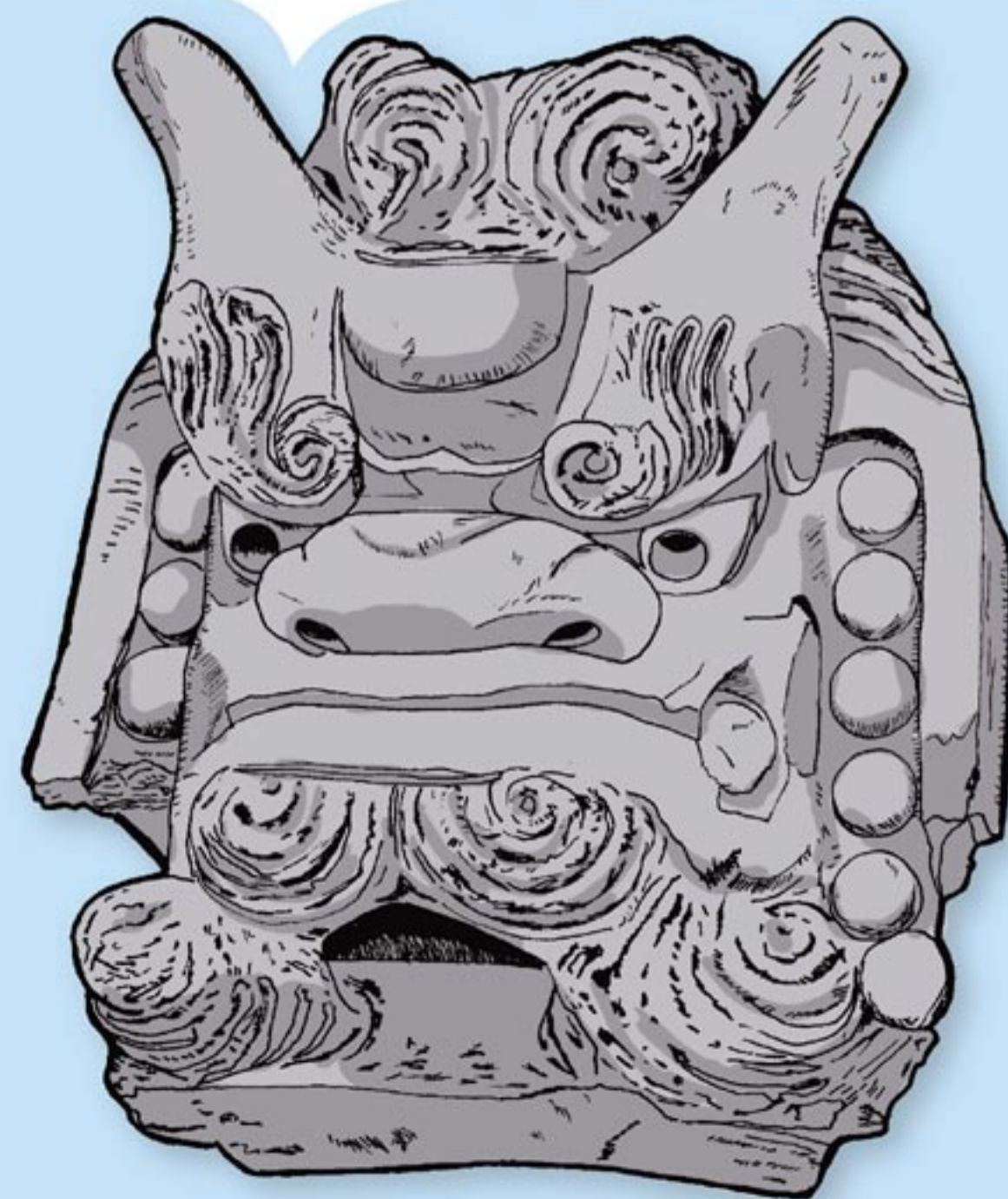
常務取締役
渡邊智仁さん

代表取締役社長
渡邊純一さん

屋根瓦の施工を通じま
わたしたちは景観を創っている

職人の安全こそ第一と考へ、
安全管理は徹底している。
他社での事故事例の共有、
安全管理講習への参加など。
さらに、正社員、請負を含めた100名以上の
職人による安全大会なども実施している。

瓦用の粘土は、淡路や三河、
島根などで産出。
とれる場所によって焼成温度が異なり、
高い温度のほうが硬い瓦になる。



瓦施工会社は、高齢化などを理由に同業他社は次々と廃業して
います。そのような状況でも100年以上も存続しているのは、屋根の
葺き替えや修繕・修理、屋根リフォーム、雨漏り修理などを真面目
に着実に取り組んできたからだと思います。その結果、数多くの施
工を手がけ、そのノウハウをもとに一般的な屋根工事会社ではでき
ない大規模な屋根工事、技術的な難易度の高い社寺仏閣の瓦屋
根改修なども、当社では可能です。

当社は施工だけでなく、協力工場のOEM製造により、昭
和53年に「飛鳥野瓦」という瓦製造も行っています。従来、社寺建
築では本葺きと言って、屋根に土を敷き平瓦と丸瓦を交互に組み
合わせる工法ですが、ある寺院の屋根は構造的に本葺きでは重量

が厳しい。とはいえ、外観上の重厚感の本葺き瓦でないとも生み出せ
ない。そこで、見た目の重厚感を担保しつつ軽量化できないかと当
社に相談されたそうです。それを受け、2代目である父が開発した飛
鳥野瓦は、平瓦と丸瓦を一体にした形と、裏面の引掛け用突起を
桟木に留めていく新しい工法が特徴。土を敷くことも不要になるの
で、半以下の重量を実現しました。

数多くの社寺仏閣に関わることができているのは、製品力に加え高
い施工力があるからだと自負しています。屋根瓦は雨を防ぐなど機
能だけではなく、建物の雰囲気を作っているんです。瓦はその場所、
その街の景色のひとつ。私たちは、景観を作っている会社だと考え
ています。

創業100年以上続く 屋根瓦専門の施工会社

瓦寅と書いて「かわらとら」と読む。瓦寅工業は大正5年に、名前のとおり屋根瓦専門の施工業として静岡の地で創業した。昭和8年に大阪営業所を開設し、のちに法人に改組。現在も、年間2,400件以上の屋根工事を手がけている。

瓦屋根は重量の面から耐震性への不安もあり、どんどん姿を消している。が、長年に渡って事業を続けている同社の強みは、新しいものに対していち早く取り組むことにある。従来の屋根瓦は粘土を成型・焼成して作るが、昭和40年頃から大手建材メーカーがセメントと繊維材料を用いた人工の彩色スレート、金属でできた屋根など新製品を発売。粘土でなければ瓦じゃない、という考えがまだまだ主流の中、同社では在庫を抱えながらもいち早く取り組んだ。その結果、大手メーカーからの信頼を得ることができ、直代理店というポジションに。現在では、粘土瓦よりも高いシェアを誇り、同社の成長をけん引している。客先の広さも、同社の特徴と言える。瓦メーカーとともにハウスメーカーへの営業を行うことで、住宅屋根の施工件数は増加。加えて、建築会社への営業を行い、商業施設やビル、寺院など非住宅の建物における瓦の施工も多く手がける。そして、同社には経験豊富な職人がそろっている。国家資格である「かわらぶき技能士」、経験豊富な管理士の証である「瓦屋根工事技士」を取得している技能者が数多く在籍。瓦工事組合が主催する訓練校での研修参加を推進するなど、職人のスキルアップに努めている。

衰退が叫ばれる瓦業界にあって同社が安定的に経営を続けるのは、他社とは違うチャレンジを続けているからだと言える。

瓦寅工業株式会社

<http://www.kawaratora.co.jp/>
<http://www.shuzen-torasan.jp/>
 〒544-0023 大阪市生野区林寺1-5-14
 TEL 06-6715-0201 FAX 06-6716-6539

事業内容／社寺瓦、和洋瓦、新生屋根材、天然スレート、輸入瓦など屋根材の施工・販売、外壁材、太陽光発電システムの施工・販売

我が社の自慢 社寺仏閣や有名な建築の屋根を施工!

同社は、四天王寺五重塔の改修、広島城二の丸表御門の復元、大阪天満宮表門のほか、富田林の願昭寺五重塔など、数々の社寺仏閣の屋根瓦を手がけている。さらに、ゴルフ場のクラブハウス、競馬場の厩舎改築、大学の校舎、ホテルなど有名な建築に携わっている。

輸入瓦も扱っている。海外のものも、素材は粘土で釉薬をかける焼成も日本と同じだが、汚れが落ちやすい。色もいろいろと選ぶことができる。

震災をきっかけに、日本瓦は従来の土葺きではなく、引掛け桟空葺き工法が主流になっていった。

100年以上もの年月で、経験やノウハウの蓄積。何年工事しても繰り返す雨漏りの修理、難しい瓦屋根の修理なども対応している。



粘土瓦の性質は、乾燥・焼成によって変形し、やがたがたになる。施工時に、調整が必要で、職人が削り隙を埋める。

昔は関西では、土を敷いたものでないと手抜き工事と言われることも。土葺きには確かに利点もあるけれど、重量が増し、劣化すると瓦がずり落ちるといふデメリットも大きい。



瓦職人の7ツ道具